

# ヒト・モノ・ハコのゆくえ

## 「博物館は何を目指して歩むのか」

講演 國賀 由美子 氏（大谷大学教授）



滋賀県では、琵琶湖文化館の再建が具現化し、いよいよ、皆さんの期待も高まってきていることでしょうか。県内にはほかにも、新しい博物館を目指しての構想や、老朽化した建物の修築を検討しているところがあり、新たな局面を迎えていると感じます。

博物館のこれからを実り多いものとするためには、現在、博物館が抱える問題をなるべく多くの方に伝え、応援いただく体制づくりが、とても重要になると思います。

今回の文化経済サロンでは、博物館の現場が抱える諸問題について、ヒト（来館者、学芸員もふくめ博物館に関わる全ての人）、モノ（収蔵品、寄託品に関わるあらゆる物）、ハコ（建物、施設、設備、外観や立地、アクセスをふくめて）を着眼点にお示しします。

今後の博物館の歩みについてどうあるべきかを、ご一緒に考えましょう。

令和4年度 文化経済サロン

令和4年

9月11日(日) 15:00~17:15

国指定重要文化財 山元春挙別邸

蘆花浅水荘（大津市中庄一丁目19番23号）

参加無料／定員30名（定員を超える申込みがあった場合は抽選します）

参加申込は裏面をご覧ください。お申し込み締切：8月31日（水）

主催  
文化・経済フォーラム滋賀 <https://biwako-arts.or.jp/rd/bunkakeizai>



京阪石山坂本線 瓦ヶ浜駅下車徒歩5分

ヒト・モノ・ハコのゆくえ  
―博物館は何を目指して歩むのか―

大阪府吹田市生まれ  
同志社大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学  
滋賀県立近代美術館学芸員、主任学芸員を経て専門学芸員にて退職  
現在は大谷大学文学部教授、前大谷大学博物館館長

著書（いずれも共著、共編著）  
『日本の近代美術 5 京都の日本画』（大月書店、1994年）  
『幸野楳嶺』（芸艸堂、1995年）  
『石山寺縁起絵巻集成』（中央公論美術出版、2016年）  
『博物館と文化財の危機』（人文書院、2020年）  
『Kyoto's Renaissance Ancient Capital for Modern Japan』（Renaissance books, London, 2020）  
『近江の画人』（サンライズ出版、2020年）

國賀 由美子  
Yumiko Kuniga



講演

ヒト・モノ・ハコのゆくえ  
―博物館は何を目指して歩むのか―  
講師：國賀 由美子 氏 大谷大学教授

<休憩>

意見交換

進行：高梨 純次 氏 公益財団法人秀明文化財団理事  
文化・経済フォーラム滋賀幹事

蘆花浅水荘 見学

案内：山元寛昭 氏 蘆花浅水荘三代目当主

蘆花浅水荘は、大正期に日本画家である山元春挙によって建てられた数寄屋建築で、当時における最高の材と技術をもって作られ、細部に至るまで遊び心とも呼べる趣向がちりばめられています。

令和4年度 文化経済サロン 参加申込書 <お申し込み締切：8月31日（水）>

参加のお申し込みは、QRコードの申込みフォームから送信いただくか、この参加申込書をFAXでお送りください。

氏名

会員区分

個人会員 団体会員 法人会員

法人会員は2名様までお申し込みできます。

お2人目氏名

電話番号

メールアドレス

定員を超えるお申し込みがあった場合は抽選します。

送付先 文化・経済フォーラム滋賀

電話 077-523-7146 FAX 077-523-7147

メール bunka-keizai@biwako-arts.or.jp



文化で滋賀を元気に！